別紙

令和5年度　学習分析事業　改善計画　三原市立木原小学校

1．本年度の結果

①学力定着分析　NRT　偏差値平均　（全国を50とする）

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果偏差値平均			61		69	61.1
	本年度結果偏差値平均	55	60.7		53.8		56.5
算数	前年度結果偏差値平均			66		66	59.9
	本年度結果偏差値平均	59	62		54.6		58
理科	前年度結果偏差値平均					66	61.9
	本年度結果偏差値平均				51.6		54.6
全体	前年度結果偏差値平均			63.5		67	60.9
	本年度結果偏差値平均	57	61.3		53.3		57.1

②全国学力・学習状況調査　正答率平均　（第6学年対象）

教科	国語	算数
前年度結果（対県比）	88（131）	85（133）
本年度結果（対県比）		

2．調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】（NRTをうけて） ●国語科では、重要な語や人物の行動をとらえること（43.0%）、文章を読み感想などを伝え合うこと（43.8%）、情報を選び構成を考えて話すこと（33.0%）、詳細を読み取って解釈すること（33.0%）に課題があった。また、長文がすらすら読めないため時間が足りず無答の問題があった。 ●算数科では、2位数×1位数・2位数×2位数（0%）、□を用いた式（25.0%）、立方体・直方体（40.0%）、分数（25.0 %）に課題があった。 ●理科では、乾電池と豆電球（33.0%）に課題があった。	【年度当初の学力について】（全国学力・学習状況調査をうけて） 【国語科】自分の考えが伝わるように図表やグラフなどを用いるなどして書き表し方を工夫しながら文章を書く経験を積ませる。 文章を読んだ後の感想文や意見文づくりの活動に取り組ませ、文章を読んで理解したことを整理し、明確にして、自分の考えをまとめさせる。 敬語の使い方について、行動の主体が相手であれば尊敬語、自分であれば謙譲語であることを確認させ、日常生活で活用させる。 【算数科】問題場面の要素と図形の基礎的な定義や性質を関連付けて考える経験を積ませる。 図形を構成する要素に着目して面積の求め方を考えさせ、適切な用語を使って説明する活動を重視する。

3．課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標　（何を、どの程度達成するか）	達成のための具体的取組　（どのようにして）	スケジュール	検証の指標・目標
【授業改善を通した学力・学習意欲の向上】 〇全教諭が、「問い」と「対話」をファシリテートすることを意識した授業を実施する。 〇全教諭が、個々の課題に応じた学習指導を行う。	①NRTの誤答分析による実態把握と改善計画の立案 ②学校経営会議において改善計画の共有 ③木原タイムを活用（拡大）した課題に基づく学力補充 ④全体研修による目指す授業の共有（教師のファシリテート力） ⑤全国学力・学習状況調査の誤答分析による実態把握 ⑥CRTを実施し、個々の課題を把握し、学習内容の定着 ⑦NRTの問題分析の研修 ⑧5年生については、全国学力・学習状況調査の3年分の過去問題の実施、解説 ⑨アシストシートを全問再度実施し、現状の課題を掴み、学習内容の定着 ⑩掴んだ課題について、再度アシストシートやWeb問題での補充 ⑪「学びのステップ」の児童参観交流会の実施 ⑫Web問題やアシストシートを活用し、学習内容の定着 ⑬校内検定テストをもとに個々の課題を把握し、学習内容の定着	①6月 ②6月 ③1学期 ④夏季休業中 ⑤8月 ⑥1月中旬 ⑦2月 ⑧1～3月 ⑨3月 ⑩4月 ⑪各学期1回 ⑫各学期末 ⑬各学期末	・校内検定テスト（業者テスト）での得点率（全児童80%以上） ・各単元末・学期末テスト平均値（全児童80%以上） ・CRTでの得点率（全国比＋10ポイント）
【学級・学習集団づくり】 〇全学級において、一人一人のよさや頑張りを認め合えるような場を設定し、居場所を実感できるよう工夫する。 〇全学級において、児童との定期面談やアンケートを実施し、全教職員が会議・委員会を通して児童の実態と取組の方向性を共有する。	①Q-Uの分析による実態把握と改善計画の立案 ②学校経営会議において各学級実態と改善計画の共有 ③SCによる授業観察と個人面談の実施および教職員への還流 ④「校内いいとこみつけ活動」の実施と掲示 ⑤校内児童アンケート（いじめアンケート）の実施	①6月 ②6月 ③年6回 ④年3回 ⑤各学期1回	・Q-U2回目の一次支援の数値の現状維持（今回は、全員一次支援群だった。） ・校内児童アンケートにおける「友達関係に関わる設問」への肯定的評価（全学級100%）